

## 第1 入間市の概要

# 元気な入間



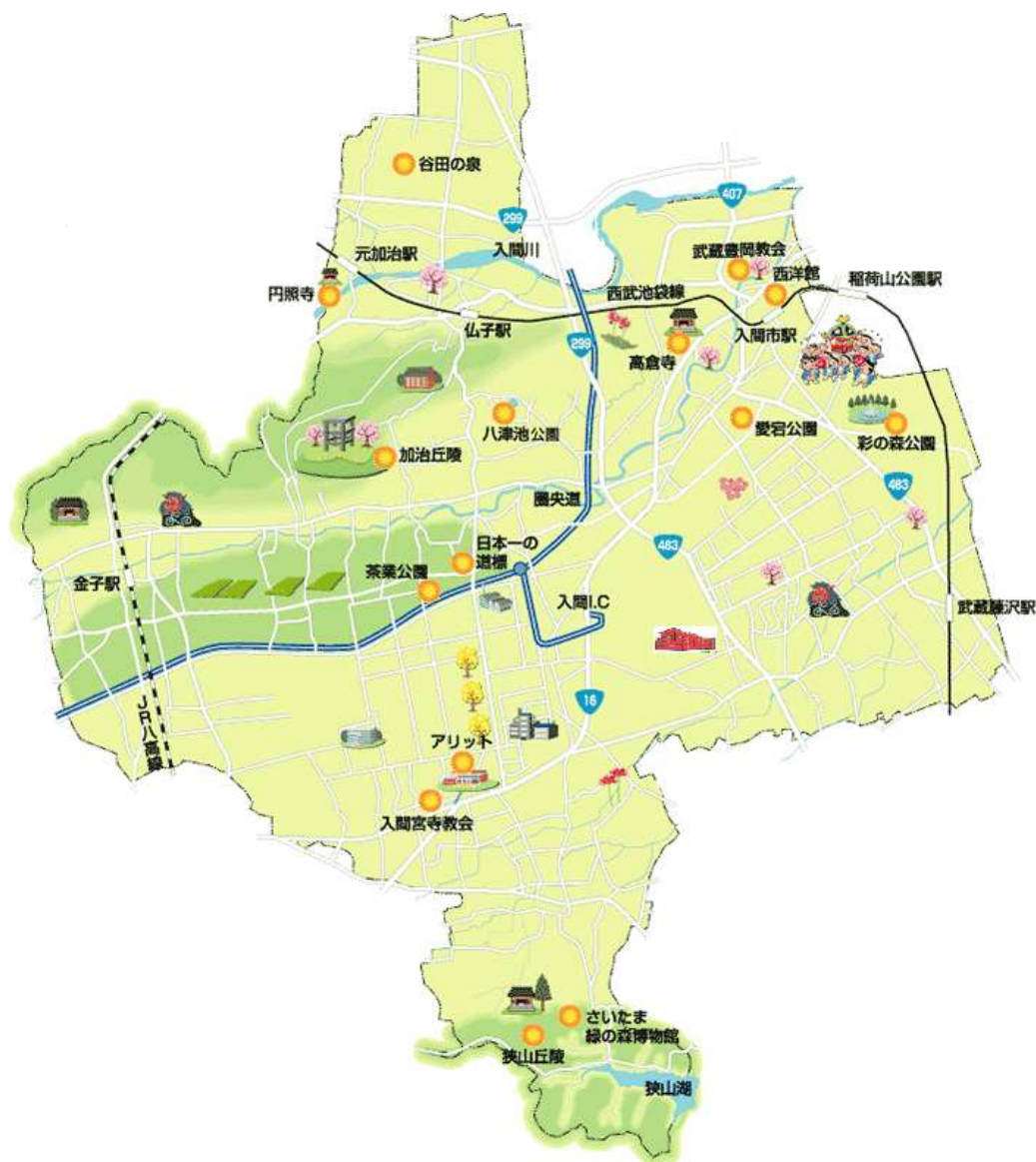
## 1 位置及び地勢

本市は、都心から40キロメートル圏に位置する緑に恵まれたまちです。面積は44.74平方キロメートルで東西9.3キロメートル、南北9.8キロメートルの菱形をなしており、周囲は、埼玉県所沢市、狭山市、飯能市及び東京都青梅市、瑞穂町にそれぞれ接しています。

市域全体は、海拔60メートルから200メートルのややなだらかな起伏のある台地と丘陵からなり、市東南端と西北端には、それぞれ狭山丘陵と加治丘陵とがあり、市域の約6分の1を占める茶畑とともに緑の景観を保っています。

また、市の西北部には荒川の主流である入間川が流れ、中央部に霞川、南部に不老川がそれぞれ東西に流れ、優れた景観をなしています。

地質は、地表が軽い植質壤土で、地下は関東ローム層と呼ばれる砂壤土質の洪積火山灰土でそれぞれ形成され、肥沃な地味は茶樹、野菜等の栽培に適しています。



## 2 沿革

入間市は、昭和41年11月1日に市制を施行しましたが、その歴史はかなり古くまでさかのぼることができます。すでに、縄文時代に先人が住みついていたことは縄文式土器の発掘によって明らかにされており、その中でも坂東山遺跡は最大で住居跡や土器等が数多く発掘されています。

中世においては、武士団が勢力をもち入間市でも村山党の金子氏、宮寺氏及び丹党の加治氏などが武蔵武士団の一員として活躍しました。この時代の史跡として瑞泉院には、金子氏一族の宝篋印塔がみられ、高正寺にも巨大な板碑が遺されています。

江戸時代当地方は、天領、藩領、旗本領と支配が入り混じっていたものの経済活動は活発化していきました。特に江戸末期において扇町屋は、穀物市や木綿市が立ち、地域経済の拠点として栄えました。

明治期に入り、現在の入間市の原型ともいえる町村（豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村、東金子村、元加治村、元狭山村）が成立し、また繊維工業のめざましい発展がみられました。戦後、町村合併が促進され、昭和31年9月30日、豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村及び西武町の一部（旧東金子村）をもって合併し武蔵町が発足しました。その後、昭和33年10月、元狭山村の一部を合併し、昭和41年11月1日、埼玉県で25番目の市として「入間市」が誕生しました。さらに、昭和42年4月1日、西武町との合併もなり現在の市域を構成するとともに首都圏近郊都市としての行政基盤が確立されました。

## 3 人口動態

(1) 人口・世帯の推移（各年1月1日）

入間市統計書

年	区分	面積 km <sup>2</sup>	世帯数 世帯	人口		世帯当 たり人数 人/世帯	人口密度 人/km <sup>2</sup>
				増加数 人	増加率 対前年%		
14		44.74	53,195	148,686	-	2.8	3,323
15		44.74	54,232	149,542	856	0.57	3,342
16		44.74	55,154	149,987	445	0.3	3,352
17		44.74	55,891	150,191	204	0.14	3,357
18		44.74	56,714	150,260	69	0.05	3,359
19		44.74	57,373	150,141	-119	-0.08	3,356
20		44.74	57,961	149,865	-276	-0.18	3,350
21		44.74	59,013	150,549	684	0.45	3,365
22		44.74	59,891	150,914	365	0.24	3,373
23		44.74	60,562	151,004	90	0.06	3,375
24		44.74	61,113	150,651	-353	-0.23	3,367
25		44.74	61,162	150,367	-284	-0.19	3,361

平成25年1月1日現在の人口は150,367人で、減少していますが、世帯数は増加しています。

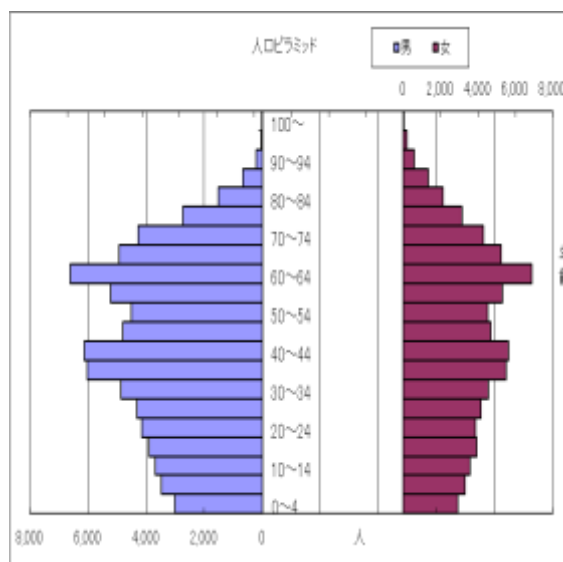
(2) 人口動態推移

(単位：人) 入間市統計書

区分 年	自然動態			社会動態			増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
14	1,275	734	541	7,235	6,920	315	856
15	1,254	857	397	7,019	6,971	48	445
16	1,209	856	353	6,477	6,626	-149	204
17	1,216	979	237	6,406	6,574	-168	69
18	1,182	968	214	6,291	6,624	-333	-119
19	1,167	990	177	6,024	6,477	-453	-276
20	1,142	1,014	128	6,432	5,876	556	684
21	1,132	1,098	34	6,118	5,787	331	365
22	1,138	1,099	39	5,832	5,781	51	90
23	1,072	1,137	-65	5,432	5,721	-289	-354
24	1,079	1,097	-18	5,516	5,782	-266	-284

(3) 階級別人口 (平成25年1月1日)

年齢	男	女	合計	構成比
年少人口				
0~4	2,961	2,788	5,749	3.82
5~9	3,383	3,239	6,622	4.4
10~14	3,651	3,529	7,180	4.77
計	9,995	9,556	19,551	13
生産年齢人口				
15~19	3,941	3,878	7,819	5.2
20~24	3,985	3,803	7,788	5.18
25~29	4,210	3,971	8,181	5.44
30~34	4,715	4,388	9,103	6.05
35~39	5,718	5,274	10,992	7.31
40~44	6,282	5,682	11,964	7.96
45~49	5,054	4,899	9,953	6.62
50~54	4,438	4,506	8,944	5.95
55~59	4,935	5,037	9,972	6.63
60~64	6,329	6,529	12,858	8.55
計	49,607	47,967	97,574	64.89
老年人口				
65~69	5,236	5,592	10,828	7.2
70~74	4,431	4,552	8,983	5.97
75~79	2,974	3,288	6,262	4.16
80~84	1,633	2,259	3,892	2.59
85~89	714	1,411	2,125	1.41
90~94	224	637	861	0.57
95~99	41	213	254	0.17
100~	4	33	37	0.02
計	15,257	17,985	33,242	22.11
合計	74,859	75,508	150,367	100



(4) 死因別の年次状況

(単位：人) 埼玉県保健統計年報

区分 年	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患を 除く(高血 圧性)	脳血管疾患	大動脈瘤及 び解離	肺炎	慢性閉塞性 肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
18 合計	970	1	309	20	4	170	124	5	72	19	3	15	18	21	23	29
男	545	0	186	13	1	92	60	3	48	14	2	8	8	4	11	26
女	425	1	123	7	3	78	64	2	24	5	1	7	10	17	12	3
19 合計	980	3	341	20	2	153	116	5	90	9	1	12	18	25	20	39
男	573	3	222	15	1	78	64	3	43	8	1	9	12	10	13	26
女	407	0	119	5	1	75	52	2	47	1	-	3	6	15	7	13
20 合計	1,026	-	335	18	5	169	125	11	85	16	-	6	21	31	24	39
男	591	-	214	8	1	89	62	10	49	12	-	4	6	10	16	29
女	435	-	121	10	4	80	63	1	36	4	-	2	15	21	8	10
21 合計	1,095	1	344	13	2	167	121	10	106	14	4	17	25	27	38	53
男	584	1	201	10	2	76	65	6	48	10	-	10	14	8	23	32
女	511	-	143	3	-	91	56	4	58	4	4	7	11	19	15	21
22 合計	1,088	-	364	20	2	208	102	12	122	13	1	16	25	26	15	27
男	592	-	217	14	1	101	50	7	52	9	1	14	13	9	11	21
女	496	-	147	6	1	107	52	5	70	4	-	2	12	17	4	6